

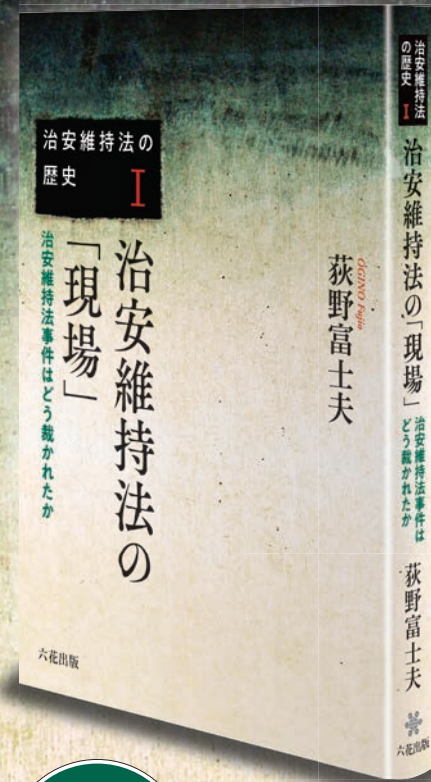
# 治安維持法によって 市民はどう裁かれたのか。

# 治安維持法の 「現場」

## 治安維持法事件はどう裁かれたか

## 治安維持法の 歴史

人の「思い」「信仰」の良し悪しを国が判断し、糾弾し、司法の場で裁く根拠となった治安維持法（一九二五～四五年）。この法律によって、多くの市民が傷つきおびえ黙らされ天皇の国家に忠誠を誓うよう強制された。特高警察の検挙・取り調べ、思想検察による起訴、裁判所での予審・公判、刑の執行と保護観察・予防拘禁、釈放——それぞれの現場で治安維持法がどう運用されたのかを膨大な資料をもとに明らかにする。



OGINO Fujio  
萩野富士夫 著

2021年  
5月刊行!

A5判・並製・360ページ  
定価 2,500円+税  
(税込2,750円)  
ISBN978-4-86617-134-0



電子書籍版も同時刊行!  
詳細は弊社HPをご覧ください。

推薦します

青木 理  
(ジャーナリスト)

一九九九年に刊行された萩野富士夫さんの『戦後治安体制の確立』は、直後に私が『日本の公安警察』を書く際に最も参考にしたテキストだった。萩野さんの労作がなければ、公安警察の内実を取材した私とその淵源まで俯瞰することはできなかったから、萩野さんは私にとって大切な先達であり、貴重な知識人である。

その萩野さんが新たに本書を刊行し、冒頭で想いをこう記した。治安維持法が猛威を振るった戦前戦中と現代の治安体制強化の動きには共通点が多く、行き着く果てを知るには治安維持法の「いわれいんねんの、いちぶしじゅう」を考察しぬく必要がある、と。

まったく同感であり、同時に少し奇妙でもある。治安体制の趨勢は私たちの生活や自由に直結する。なのに戦前から現在に至る変遷を串刺しにして探究する知識人はほかに見当たらない。まことに心もとないが、だからこそ本書の意義は重く、萩野さんへの期待は大きい。続く植民地と傀儡国の治安体制研究も刊行が待たれる。

はじめに

「いわれいんねんの、いちぶしじゅうつを、みなもとにさかのぼつて」／奥平「治安維持法小史」のめざしたもの／治安維持法は「適法」／思想犯罪・処理の流れにそつて

I 検挙・取調——特高警察

一 内偵捜査  
視察内偵戦術／「犯罪事実」の発見と報告

二 検挙  
検挙の状況／特高警察による検挙のマニュアル／「無慈悲なる追撃戦」

三 取調  
毛利基の取調／一九三〇年前後の聴取状況／「素行調査」／今後の方針の聴取／「巧妙なる取調」という名のでっちあげ／供述中心主義／人民戦線事件の聴取／勝岡田清の聴取／宗教事犯の聴取／ソルゲ事件の取調／「手記」拷問／長期にわたる勾留

四 送致  
送致の手続／「可然御処置相成度」／戦時下の「意見書」／ソルゲ事件の「意見書」／訓戒・放免

五 功績の顕彰  
功勞記章の授与／天皇による叙勲

II 起訴——思想検察

一 特高警察への指導・指揮  
思想係執務綱領／特高を「我々の手足」に／具体的事件でも指揮権を確立

二 思想検察の立ち位置  
思想戦の戦士として／罪刑法定主義の放棄へ

三 取調  
取調調査のつくり方／治安維持法最初期の「強制処分請求」／三・一五事件の取調調査／四・一六事件の「取調調査」／思想検察・太田順造の「取調調査」／存在しない党を処罰する論理／戦時下の「取調調査」／ソルゲ事件の「取調調査」

四 起訴  
起訴か不起訴か／公判請求の事例／京都学連事件の「予審請求」／三・一五事件の「予審請求」／学生への起訴緩和と処分の「留保」／起訴基準の変動／人民戦線事件の「予審請求」／起訴状の雛型／戦時下の「予審請求」／ソルゲ事件の「予審請求」／「予審最終意見書」

五 論告・求刑  
九州三・一五事件の論告／長野県教員赤化事件の論告／転向・非転向組への論告／量刑の基準／厳罰化の流れ／大本教事件公判の論告／検察による控訴・予告

III 予審——裁判所 I

一 予審取調  
検察の延長としての予審／東京三・一五事件の予審／京都三・一五事件の予審／各地四・一六事件の予審／人民戦線事件の予審／生活主義教育運動事件の予審／戦時下の予審／ソルゲ事件の予審

二 予審の諸問題  
予審の長期化とその要因／専門予審判事の要望／予審長期化の「改善策」／予審

I 治安維持法の「現場」

治安維持法事件はどう裁かれたか  
二〇二二年五月  
[刊行予定]

II 治安維持法の成立と「改正」史

治安維持法の成立と「改正」史  
二〇二二年一月

III 朝鮮の治安維持法の「現場」

朝鮮の治安維持法はどう裁かれたか  
二〇二三年五月

IV 朝鮮の治安維持法

朝鮮の治安維持法  
二〇二二年一月

V 「満州国」・台湾の治安維持法

「満州国」・台湾の治安維持法  
二〇二三年五月

著者紹介

荻野富士夫（おぎの・ふじお）  
一九五三年 埼玉県生まれ  
一九八七年より小樽商科大学勤務  
二〇一八年より小樽商科大学名誉教授  
主要著書  
『特高警察体制史——社会運動抑圧取締の構造と実態』せきた書房 一九八四年／増補新装版 明誠書林 二〇二〇年／戦後治安体制の確立 岩波書店 一九九九年／「思想検事」(岩波新書) 二〇〇〇年／「特高警察」(岩波新書) 二〇二二年／「よみがえる戦時体制」(集英社新書) 二〇一八年

三 予審最終決定  
判事による量刑の基準への不満／厳罰主義への賛否／保釈  
決定書の形式 三・一五事件の予審最終決定／四・一六事件の予審最終決定／長野県教員赤化事件の予審最終決定／戦時下の予審最終決定 生活主義教育運動事件の予審最終決定／ソルゲ事件の予審最終決定

IV 公判——裁判所 II

一 公判の進行経過  
荒れる法廷／開廷 起訴状の朗読／被告の陳述／公判における取調／拷問の暴露／証人取調 論告・求刑／官選弁護人／弁護士指定制度 被告弁論／上申書／名古屋と新潟の三・一五事件判決 判決書式のパターン化／葛藤する裁判官／判決の感想／控訴審／上告審

二 判決全般的特性  
第一 条への収斂／「私有財産制度」否認の適用から／「国体」変革への収斂／「国体」変革への二つの疑義／目的遂行罪の膨脹／懲役刑の偏重／石田弘吉裁判長／長野県教員赤化事件公判／浜辺信義裁判長

三 公判の諸問題  
公開か非公開か／併合審理か単独審理か／裁判闘争／党中央部統一公判／「転向」をめぐる「温情主義」／厳罰主義の増加／判事と検事の一体化

四 公判における弁護活動  
弁護士の組織化／果敢な弁護活動／布施辰治弁護士／弁護士の治安維持法観／鈴木義男弁護士の「人間尊重の精神」／鈴木義男の治安維持法「改正」批判／河上肇の弁護 日本無政府共産党事件の弁護／大竹博吉の弁護／人民戦線事件・宇野弘蔵の弁護／人民戦線事件 有沢広巳の弁護／高田富与弁護士の治安維持法観／敗戦後の司法記録処分指示に抗して 北海道綴方教育連盟事件の弁護／「獄中メモ」 総計二時間の弁論 海野晋吉弁護士の横浜事件弁論／山川均の弁護 小倉指郎の弁護 藤川卓郎弁護士のホーリネス教会弾圧事件弁論

V 行刑・保護観察・予防拘禁

一 行刑  
多喜二の小説「独房」を通して 思想犯の「戒護開始」／「行刑教化時代」への突入／「転向」への誘導／獄内闘争と偽装転向／河上肇の「仮釈放の夢」／「トーチカ頭」への大爆撃／総計三〇〇〇人の受刑者／戦時下の行刑

二 保護観察  
思想犯「保護観察」の仕組み／「保護」から「思想の指導」の重視へ／「転向」誘導の積極化／特高警察との競合と反目／河上肇の「保護観察」 観察＝慈母から監禁＝厳父へ／「反国家思想」の防止絶滅へ

三 予防拘禁  
「予防拘禁」の仕組み 徳田球一の「予防拘禁」／「予防拘禁」の諸相／「予防拘禁」決定に拘まらない事例 「精神入替所」と「隔離所」／「予防拘禁」からの退所

VI 治安維持法体制の終焉

敗戦と治安維持法の継続／治安維持法体制崩壊の予感／「人権指令」発令と治安維持法の廃止 「政治犯」の釈放 治安維持法受刑者 被疑者の釈放と公判中被告の「免訴」  
あとがき

注文カード

注文カードの記入欄。住所、名前、電話番号、注文内容、送料、代金、備考欄を含む。

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。お急ぎの場合は小社に直接ご連絡ください。電話03(3263)8787 Fax03(3263)8788 電子メール info@rikka-press.jp